



いま、和賛心のとき

フォーラムたより

2025
10月号
No.66

特別寄稿「東京センターの役割を再確認する」

金光教浦和教会長・前金光教教団会議長 松本光明

センタービルは必要なのか

「はたして東京に教団所有のビル（センタービル）は必要なのか？」が今問われています。現在のセンタービルは老朽化が進み、耐震基準も満たしていないため、使い続けるには建て直しが必要ですが、厳しい財政状況に直面する現在の教団ご当局はその割り当てに苦慮しています。巷には「それよりも土地もろとも売却して不足する教団財政に充てたらどうか」という意見さえあるようです。

教団の財政逼迫の原因は端的に言えば、私たちの布教と救済の力が弱まり、信徒数と神様への御礼のお下がりが増少しているからです。もともと現代の日本は昔よりはるかに布教が難しくなっていることも事実なので、

そのような厳しい状況の中で、それでも改築や維持にお金のかかる東京センター（ビル）は必要なのか？ということが問われているのです。真剣に考えなければなりません。

東京センターの役割は？

では、東京センターはこれまでどんな役割を果たしてきて、これからどのような役割を担っていくべきなのでしょう。

役割①「教団の眼、耳、鼻として」

昔の東京出張所機能です。地方に本部を置く教団だからこそ首都東京の情報は欠かせません。教祖様の時代から政治状況はそのままお道の存亡に深く関わってきました。政治と宗教との間

には正しい意味での緊張関係が必要です。さもなくば政治が宗教を利用したり、逆に宗教が政治を利用したりします。本教は政治には直接関わりませんが、時の政府・行政そして世論の動向を敏感に感知し、同時に他の宗教教団とも交流しながら、必要

な際には連携して政治に対峙し、社会に訴える力が求められます。学者・ジャーナリスト、その他の団体とも情報交換を行い、お道とこの国の未来への舵取りに必要な情報と分析、提言を本部に送り届けることが必要です。

役割②「御本部と教会をつなぐ」

教務センター機能です。御本部の事務手続き窓口として教区内の教会と御本部とをつなぎ、各教会の布教活動を支えるお役目です。

役割③「現代に相應しい布教方法の開発と実践」

日々刻々と進化した変化していく社会と人々の暮らしに潜む難儀の背景をつかみ、より多くの

人に信心による助かりの道を伝えていく新たな方途を開発し、実践することが求められます。これには各教会の現場感覚のフ

役割④「信奉者の連帯活動の支援と協働」

首都圏の信徒運動、信心運動の興隆のため、教会の枠を超えた信奉者の様々な活動を支援してきました。今後さらなる展開が求められています。

センタービルは教団存立と布教の要（かなめ）

役割の①と②は教団、教務の存立にとって欠かすことの出来ない大切な機能です。特に①の機能の拠点を失うことは、教団の眼と耳と鼻を失うことになり

ます。また役割③と④の布教機能は、教務との連携を深めつつも、今後は私たち首都圏の教会が主体となつて進めていくことになるでしょう。首都圏フォーラムはそのために結成された、と言っ

ても過言ではないと思います。「道は人が開け。おかげは神が授ける」と教えられています。道を開くのは神様のおかげを受け

「嗚呼 金光教センタービル」

金光教首都圏フォーラム副議長 鈴木一嘉

八月、用があつて久しぶりに金光教センタービル五階の金光教国際センターを訪ねた。

金光教センタービルには、毎月数回会議などで足を運ぶ。最近悪いことに、三階の集会室の雨漏り後の染みには目が慣れてきた。

「五階に入るのは何年振りだろう」と思つて入室、北側の窓の下に目がいって、思わず愕然とした。「壁が崩れている！」。廃屋の一手前だと感じた。「今巨大地震が起こったらどうなる」、

「今世界中の信奉者の一人が急に国際センターを訪れたら、この壁を見て、『天下の明教』をいかに思うか」。短い時間で様々な

事が頭をよぎった。

このビルは、一九八五年に中古物件として購入。以来四十年の歳月が過ぎている。「このビルは、現在の耐震基準に足りてい

ない」と、東京センター所長から聞いたのは随分昔のことだ。現在、新センタービルの御造営が願われている。御造営には巨額の費用がかかることは明白である。そして、御造営が果たされても、時々メンテナンスが必要である。

この度首都圏フォーラムでは「首都圏布施設整備基金」の口座開設をした。御神願成就の為に、東京に金光教独自のビルを置く事は必須である。この基

「最近の能登半島支援」

金光教首都圏災害ボランティア支援機構事務局長 宮田和弘

『令和六年能登半島地震』から一年九か月、『令和六年九月能登半島豪雨』から一年が経ちま

した。被災地では、未だに多くの人が様々な不便さを感じながら仮設住宅で暮らしています。

支援機構では、現在主に『被災地NGO協働センター』という団体の活動に参加する形でボランティアを進めています。この団体は、三十年前の阪神・淡路大震災直後に神戸で活動を開始し、それ以来国内外の自然災害に対

して幅広く支援活動が続けており、今回も地震直後に駆けつけ、現地に活動拠点を設けてスタッフ

金は息の長いものとして、貯まった浄財をセンタービルの「保全・補修」に充てることを目的としている。皆様の御理解とご協

力をお願い申し上げます。

「首都圏布施設整備基金」
三菱UFJ銀行 本郷支店
普通預金
口座番号 0387228

「金光教首都圏フォーラム」
教会として振り込まれる場合は、「〇〇キョウカイ」と（金光教を抜いて）教会名を明示して下さい。個人の場合は、「氏名教会名」の順で記名してください。

動への参加やお問い合わせを待ちしています。
支援金のご協力も引き続きよろしく願います。

「ボランティア活動支援金」
みずほ銀行 本郷支店
普通預金
口座番号 2765405

「金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構」
教会として振り込まれる場合は、「〇〇キョウカイ」と（金光教を抜いて）教会名を明示して下さい。個人の場合は、「氏名教会名」の順で記名してください。

「戦後八十年・首都圏布教御礼祈願祭」

金光教首都圏フォーラムは、六月八日（日）午前十一時から、今年も首都圏布教御礼祈願祭をお仕えしました。この祭典は、天

地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様、そして首都圏布教功労者のご霊神様に、今日までの首都圏布教の御礼と、ここからのさらなる進展を祈願する祭典として、首都圏布教百年の年から形を変えながらほぼ毎年仕えてきました。今年は首都圏布教百三十七年。昨年に続きご霊地東光園の東京布教記念碑の前でお仕えできました。暑さも厳しい中ですが、陰しい上り坂をものともせずに四十名の方たちが真心で参拝されました。

祭典は、山田信二首都圏フォーラム議長が祭主、鈴木宏宗師（千葉県連合会）が祭員を務め、首都圏布教祈願詞奉唱、取次唱詞奉唱、祭主祭詞奏上、祭主玉串奉奠、天地書附奉体、参拝者代表玉串奉奠、平和の祈り奉唱、東京布教賛歌「いま日はのぼる」斉唱の順に仕えられました。

最後に祭主が八十年前の戦争を振り返り、「今年は、第二次世界大戦の終結から八十年という節年を迎えての祈願祭です。信心は、教祖様の教えと、御本部、各教会でのお取次に加え、平和な世界があって、はじめて十分にできていくことだと思います。首都圏布教は首都圏のためだけのものではありません。世界の平和と人類の助かりに向けての

御用です。そのための御用に連帯して当たらせていただきますように。」と挨拶しました。

八十年前の戦争によって多くの人が犠牲になりましたが、本教師信徒の中にも命を落とした方が多くありました。また各地の空襲や強制疎開で施設を失った教会も多数あります。首都圏においても、当時の九十六教会の内四十九教会（茨城県一、群馬県二、東京都三十四、神奈川県十一、山梨県一）、さらに六布教所、東京出張所、関東教務所、青年会寄宿舎が空襲で罹災しました。また強制疎開で立ち退かされた教会は九教会あり、そのうちの四教会は移転先で空襲に遭ったということです。

そのような大きな被害を乗り越えて人を助け、今日に首都圏布教の営みを伝えてくださった先人たちの尊い御用には、いくらかお礼を申し上げても足りません。

また、戦時中このお道のご信心が歪められ、神様の氏子同士が殺し合う戦争に教団を挙げて協力したという歴史を振り返れば、私たちは深い反省とお詫びをもとに、二度と戦争の惨禍を繰り返さないことを誓い、平和を希求・実現する信仰の確立を求めていくことが、今日を生きる私たちの役割です。

また、当日は教師勤続四十年褒賞を受けられた南恵子師（神奈川県登戸教会）、松本峰子師

（埼玉県浦和教会）、宮田恵子師（東京都本所教会）と、新たに教師に任命された岸井祐貴師（東京都新宿教会）、嶋田誠文師（埼玉県所沢教会）の紹介があり、参拝者全員から温かい拍手が送られました。



茨城・栃木教会連合会

茨城栃木教会連合会では、恒例の教師信徒合同研修会を六月十～十一日にかけて、川治温泉「金型かわじ荘」を会場に開催した。予てより信徒部が温め続けた「膝詰めでじっくり信心共励ができる場を」との願いを受け、講師として中畑吉子先生（北沢教会長）にお越し頂き、「道を伝える」をテーマに定めた一泊型研修が実現した。講話・質疑・会食と懇談の場を通して、十一名の参加者は「身近な間柄で伝える信心・親から子へと伝わるような信心」の重要性を感じとった。一泊二日間であった。

群馬・埼玉教会連合会

五月三十日、埼玉県環境整備センターを会場に「第三回群馬のつどい」を開催し、二十四名が参加しました。SDGsの「エネルギー」について考えるためリサイクル工場を見学。廃棄物が再利用されエネルギーに変換される工程を学び、その後、信徒部のクイズで盛り上がりました。

七月十四日、教師研修会を行い、九名参加。精神科医の小泉実意子先生（東京教会）をお招きし、「発達障害」について学びました。参加者から「取次者として、自分の物差しだけでなく、相手の物差しも理解していこうとす

連 合 会 通 信

る姿勢が大切だと感じた。」との感想が聞かれました。

千葉県教会連合会

八月三十日（土）は、気温三十八度の暑さの中、青少年の成長を願う教師と信徒二十一名が青少年育成祈願祭に参加。典楽に興味を持つ信徒達が楽器に触れ音色を楽しみ、典楽指導員二人の方から、神様にお供えをする典楽であるということ、お礼を込める心が大切であるということをお教えていただきました。

午後からは、三管と太鼓、お琴の演奏で祭典がお仕えになりました。その後、青年教師二人から『御恩』と『道を伝える覚悟』の話を頂きました。直会では、お筆から離れなかった小学生の感想を聞かせていただき、定期的にやり組んでいきたいという話が上がりました。

最後は、連合会長から『神公私』という、大切にすべきことの順番についての挨拶を頂き、無事に閉会となりました。

東京都教会連合会

今年から新分会編成となった東京都教会連合会は、各々活発な分会活動が展開されています。第三分会は七月二十一日にボーリング大会が開催され、第一分会は八月十一日に、金光教のラ

ジオ放送を元に信心共励を行う分会集会が実施されました。第二分会は十二月七日に「防災出前講座」を受講します。また十一月三十日には、首都圏内の教会の信奉者間の親睦をはかるイベントとして『首都圏交流アクティビティー』を、品川区小山台の「林試の森公園」を会場に開催致します。皆様の御参加をお待ちしております。

神奈川・山梨教会連合会

神奈川山梨連合会では、「お道の仲間をつくろう」「信心を高めよう」「次の世代につなげよう」「信心の喜びを伝えよう」という合言葉で、連帯と研鑽の活動を進めています。

三月二十六日には、みんなの交流会を開催。二十四名が参加して、キリンビール横浜工場の見学を行い、日本でのビール製造の歴史やビール製造工程など学び、しっかりと試飲も楽しみました。

その他、教師信徒研修会（七月五日）、女性の集い（七月十三日）では学び合いの時を持ちました。さらに、第三回グラウンドゴルフ大会（十月十三日）、講話と夕食の会（十二月六日）と続きます。ホームページ <http://www.kyokairengokai.jp>